



南中だより 速報

平成29年11月28日
東久留米市立 南中学校
校長 川上 智

山下先生、米国ノースカロライナから帰国 南中のみんな、もっと自分に自信をもって！

2年生、3年生が書いた手紙や日本を紹介するイラスト付きの掲示物、作成したビデオレターを持って山下先生が7日間、米国に出張し23日（木）に帰国しました。

イースト・チャペル・ヒル高校では、「英語の文字がみんな綺麗。アメリカ人の僕たちにも書けない。」と評判だったそうです。また、ビデオレター ①折鶴を折る手順を英語で説明（Origami） ②南中校舎内を英語で案内（About School） ③日本の歌紹介（Japanese Songs）を見た生徒たちは「英語が聞き取りやすい。分かりやすい。」「ジェスチャーを交えるなど表現力が高い。」「見ていて飽きない。」等クオリティの高さを絶賛していたとのこと。視聴し終わると皆が自然に拍手をしていたそうです。そして、山下先生からこんな興味深い話を聞きました。

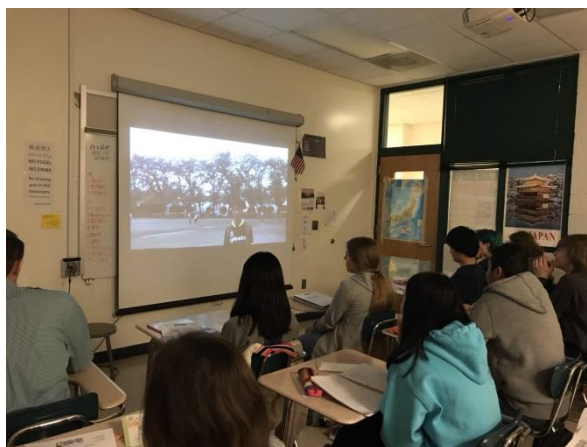
イーストの子供達は、「こんにちは」しか話せなくても「自分は日本語を話せる！」って言う。こんなに英語を褒められたのに南中の子は、きっと「英語話せる？」って聞かれて「あまり話せない。」って言うと思う。

アメリカ人はできることを「できる」と自信をもって言える。はっきりと自己主張する。私たち大人も見習わなくてはならないことかもしれません。確かに謙虚で、奥ゆかしいことは日本人の美德の一つ。このことはこれからも大切にしていきたいと思うのです。同時に、グローバル社会で生きていく子供達には、こうした文化や国民性の違いを理解し受け入れ、世界の人々と協調しながら伍して活躍して行ってほしいと思っています。異文化理解と自国の文化理解の深化、ノースカロライナとの交流の意味はまさにここにあるのです。

左) 南中の生徒の作品



右) ビデオレターを見るイーストの生徒



イーストでは、来年7月に生徒が南中を訪問する構想が！ 夢は相互のホームステイ！！

イーストの担当の先生のお話だと、来年7月に生徒を南中に訪問させる構想があるとのこと。これまでも毎年、イーストでは代表の生徒が来日しているそうです。来校するのを楽しみにしています。そして、近い将来、南中とイーストの生徒が相互にホームステイができないかとも考えています。

ホームステイなど直接交流することにより、外国人の文化的、社会的な背景や、宗教的背景について体験を通して知り、外国人の思考方法や思考過程、さらには価値観の根底にある風土を学ぶことができると考えるからです。本校ではこれまでもオリンピック・パラリンピック教育で、企業や組織委員会と連携した取組を行ってきました。イーストとの交流でも何とかこうした連携が、どこかできないかと検討中です。もちろん代表の生徒となりますが、生徒みんなが代表を目指すことや、帰国した代表の生徒の話から学ぶことにも大きな意味があると思うのです。

ノースカロライナ州政府日本事務所 代表 柴田 純男 氏 講演会

州政府事務所は貿易促進、投資誘致が主な業務内容ですが、ノースカロライナ州に関する資料の提供に引き続き、南中を支援してまいります。

柴田代表は、商社にお勤めの頃、長く海外勤務をご経験され、現在はノースカロライナ州政府日本事務所で代表を勤めています。代表からは、ノースカロライナ州のことはもとより、海外勤務のご経験から、中学・高校時代にどんな力を身に付けておくべきかについて講演していただく予定です。近くなりましたらご案内します。

平成30年2月2日（金） 午後1時30分から2時30分 本校体育館

「大留学時代」が始まっている。日本経済新聞朝刊から

2017年11月6日朝刊に、「大学は生き残りをかけ国際化を進め、国や企業も支援に動いている。ネックとなるのは費用。しかし奨学金の活用によって解決の道が。」という趣旨の記事がありました。地方自治体、企業、財団が提供している給付型もあるようです。日本学生支援機構（JASSO）の支援サイトには海外留学に関する様々な情報が載っています。また、同年11月27日朝刊には、留学の結果としてどのような効用が認められるのか、留学期間別の能力獲得に関する記事がありました。6ヶ月以上の留学で、非常に身に付いた能力は「英語力」を抜いて「異文化理解」が73.7%でトップでした。

冬季五輪（リレハンメル、長野、ソルトレイクシティ）3回出場 クロスカントリー 神津 正昭さんスキー教室で講演

昨年度同様、1年生のスキー教室でオリンピックの神津さんに、菅平やウインタースポーツのことと、ご自身のご経験から「一つでいい。好きなこと、がんばれることを見つけよう。」というお話を伺う予定です。南中オンリーの特別企画です。